

WEEKLY

例会場
 ロワジールホテル豊橋 TEL.0532-48-3131
 事務局 豊橋市藤沢町141
 ロワジールホテル豊橋本館9階 926号室
 TEL.0532-35-9973 FAX.0532-39-3743
<http://www.toyohashi-golden-rc.gr.jp>
 email golden@toyohashi-golden-rc.gr.jp

RIメッセージ

地区方針

クラブ方針

フランチエスコ・アレツォ会長

鈴木康仁ガバナー

神谷馨会長

UNITE FOR GOOD

ともに学び、ともに地域社会に貢献しよう!

 新たな時代へ 理想の未来への挑戦
 環境変化に対応し、より魅力的なロータリークラブへ

第15回(通算1719回)例会報告		令和7年10月24日(金)	クラブ創立記念例会
出席報告	総会員数61名(計算会員数57名) 欠席12名 出席率78.95% 前々回修正出席率92.98%		
歌/会場	かがやく空	会場: ロワジールホテル豊橋 30F「ル・モン」12:30~	

乾杯

三浦時子会員



三浦でございます。

諸先輩がいらっしゃる中で、大変僣越ではございますが、創立記念例会の乾杯をさせていただくことを大変光栄に存じます。

37周年ということで、豊橋ゴールデンロータリークラブの今日があるのは、会員の皆様がこれまで築いてこられた良き伝統や風土の賜物と存じます。

「不易流行」いつまでも変わらない本質的なものと、時代とともに変化するものの調和を大切に、クラブが永続的に発展することを願い、また会員一人ひとりが我が事として、参画していくことが重要と思っております。

それでは、豊橋ゴールデンロータリークラブの創立37周年を祝して乾杯いたします。



さて、10月24日本日は世界ポリオデーです。ポリオプラスは1985年に2005年までに地球からポリオを駆逐するというロータリーの大規模な事業です。現在パキスタン、アフガニスタン、そしてガザ地域において少数の感染が確認されています。ロータリーは35年以上、ポリオを世界から根絶するための活動を続け、大きな進展を遂げてきました。世界ポリオ根絶推進活動(GPEI)を立ち上げたパートナーとして、ロータリーはポリオの症例を99.9%減らす貢献をしてきました。現在も野生型ポリオウイルスが存在する2カ国+ガザ地区からポリオを完全に根絶し、他の国々をポリオフリー(ポリオのない状態)に保つことが重要です。根絶活動を今ストップした場合、10年後には年に20万人もの子どもがポリオによるまひ障害に侵される可能性があります。本日はポリオ根絶の為のご寄付にご協力よろしくお願い致します。

入会記念日祝い

会長の時間

神谷 馨会長



皆さまこんにちは。本日はゴールデンロータリークラブが創立37年を向かえ、これまでの様々な歴史を振り返り、また、今後の理想的な未来を考えるクラブ創立記念例会です。

1988年10月28日豊橋RCをスポンサークラブとして、設立条件に「金曜日の気楽な仲間の集い」「活力に満ちた仲間の集い」「金色のように輝く仲間の集い」を掲げ創立しました。チャーターメンバーであります大須賀憲太会員より様々な歴史を拝聴出来ます事を楽しみにしております。



大須賀憲太会員 牧野政雄会員



西郷隆治会員 山口幹夫会員 山本雅久会員

人生の岐路『あの時違う人生を歩んでいたら…』



宇藤 信会員

『人生の岐路～あの時違う人生を歩んでいたら…』という難しいテーマを頂きましたが、『あの時違う人生を歩んでいたら』とはあまり

考えたことはありませんので『人生の岐路』について自己紹介を兼ねて少しお話させていただきます。

過去を振り返ってみると数えきれない人生の岐路があり決断の連続であったような気がします、その中でも私にとって大きな人生の岐路と思われるものは大学受験、結婚、会社の設立、JC 時代、業種転換などであったと思います。

18 歳の時、東京の大学の受験に失敗して地元豊橋の大学に進学しました。入学した時から全学ストで授業は無く、毎日の麻雀、フォークソング同好会の仲間と遊んだり、デモがあればデモに出かけたり、少し硬派のふりをして少林寺拳法の道場通いをしたりと授業をまとも受けた記憶はなく、学生生活を楽しみ、就職活動もしなかったのも、卒業後は家業であった父親が経営するガソリンスタンドを営むウトウ商事という会社に入り、27 歳の時には人生で最大の選択事項である結婚を致しました。東京の大学へ行っていたら就職、結婚と今まで歩んできた道とは全く違う人生を送ることになったと思います。

31 歳の時、経営方針の違いより父親の会社より独立してウトウ石油（株）を立ち上げましたが、当時は 31 歳で社長という随分若いと言われ名刺を出すのが少し気恥ずかしかった記憶があります。

40 歳 JC 卒業の時、日本青年会議所全国大会の実行委員会のスタッフを引き受けたことで 1989 年の準備から 1990 年の開催まで 2 年間で毎日、JC に費やしました。その 2 年間で多くの JC の仲間や関係する人の生きざまに接することで、人間を見る目というものが少しは養われ、その後の人生に大いに役立ったと思います。当時は怖いもの知らずの 40 歳でいろんなことがありました。

ある時、名古屋で JC の打ち合わせがあり栄を専務理事と二人で歩いていた時のこと、通りに面した企業に飛び込みで全国大会の寄付を頼もうと、どちらともなく思いつき実行しました。駄目だとは思っていましたが、なんと JCB の名古屋支店で話をすると正式に依頼書を出してくれと言われこちらがびっくりしたことがあり、まさに世の中はバブルの絶頂期でありました。ちなみに東海カンントリーの会員権は最近では 30 万円位だそうです。当時は 4,000 万の声もあり、親父に売ろうと言うと、「もっと上がる」の一言で売り損なって、未だに持っています。

48 歳の時にセルフのガソリンスタンドが解禁になったので、先行している業者を全国に尋ね、教えを乞うて東三河の他の業者に先駆けて既存の 3 店舗をセルフスタンドに改造し、1 店舗を閉鎖して貸地にすることで、なんとか生き残ることができました。しかし競争はますます厳しくなり、店同士の戦いというより元売りという石油会社の生き残り競争になり小さな我々の出番はなくなっていくのは明白でした。

そんな状況で、60 歳の時、70 歳で石油業界より足を洗い不動産業への転換をする 10 年計画をたて、何とか実現できて現在に至っています。

先週、大学時代の同級生 4 人で草津温泉に行き、旧交をあたため、飲んで一夜を過ごしましたがいつも意見の合わない 4 人ですが最後に『後期高齢者になってみると、まあいい人生だった』で話は終わり、再会を期して別れました。

結局のところ人生は紆余曲折があり、選択の連続であります。どんな選択をしても自分自身で意思決定したものであれば『人間万事塞翁が馬』で最後には、いい人生だったと思える時を迎えることができると思う今日この頃です。



藤倉康晴会員

自身の 49 年間で振り返った時に、大きな選択肢に遭遇した記憶はなく、流れのままに進んできた人生だったと思う。

そんななかで『私の人生の岐路』をあげるとするならば、『手筒花火・豊橋祇園祭』が生きがいと言える大きな存在になったタイミングではないか。今日はその話をさせていただきます。

約 15 年前の夏。祭礼 2 週間前に当時の煙火長（私と同じ町内）が祭礼関係者や町内と揉め事を起こし急遽退任。通常であれば副煙火長が代わりに任を担うのだが、なんと『この責任はお前の町内で取れ！』との事で、急遽花火大会の進行担当をやらざるを得ない状況に置かれた。私にとってただ単に 1 年で 1 回の楽しみであった祇園祭が、大変な重責を負う一大行事となってしまった。花火大会の進行係は、アナウンスの導入・花火の点火指示・PA への音響指示・タイムキープが主たる業務であり、いわば現場ディレクターである。プログラムはすべて机上で作成されており、現場では時間通りには進んでいかない。その中で 2 時間の花火大会をよりよいものにと進行していく。

時には点火指示したのに花火が出ない、ミュージックスターマイン（音楽連動）なのに音楽が鳴らないなど、スポンサーへの謝罪に伺ったこともある。消防や警察とも申請内容や規制に関して口論したことも多々。それも今となっては大きな経験となっている。



1 煙火協賛していただける多くのスポンサー、最高の花火を作り上げてくれる煙火業者、栈敷席を購入し会場に足を運んでいただける方々、離れた場所からも楽しみに待っている多くの方々に最高の時間をお届けしたい。なんでもそうだが、現場でしか伝わらない魅力がある花火は五感に訴えかけるエンターテインメントである。映像とは比較にならない一瞬の閃光、体の芯まで響く爆発音と空気の波動、風向きによって感じる火薬の匂い。そんな経験から毎年カイゼンを重ね、『どこにも負けない花火大会』を作り上げてきた自負があります。この感動体験の中心で運営に携われる事に幸せとプライドを感じています。

『私にとっての人生の岐路』は、15 年前の先輩からの無茶ぶりが、結果的に「どうすれば人の感動を生み出せるか」という感性を体に染み込ませるきっかけとなり、私にとっての『生きがい』になったことである。

クラブ創立記念例会 — 37 年を振り返り —

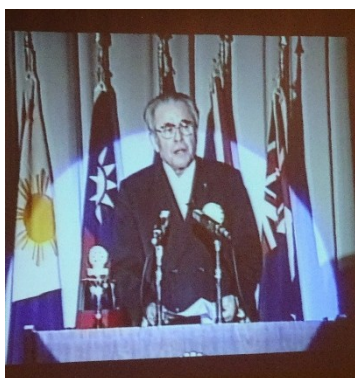
大須賀憲太会員



今日は、豊橋ゴールデンロータリークラブ創立記念例会にあたり、これまでの歩みを振り返り、そして未来に思いを馳せる機会をいただき、感慨深く思っております。

1988 年の 10 月 28 日金曜日、私達のゴールデン RC は創立総会を開催いたしました。

その当時の WEEKLY と私の手帳によれば、9 月 16 日の豊橋ゴールデン RC 結成グループ会議を皮切りに、2 回の仮例会、豊橋 RC 例会への 2 回の出席体験を経て、この 28 日を迎えるわけです。その時の、初代大野会長の挨拶の一部を紹介しますと「ここにバナーのデザインがございます。波が 4 つになっておりますが、これは 4 つのテストと 4 つの奉仕を意味しております。飛んでいるカモメのように、鮮やかに現代を乗り切っていくと、又平均年齢 45 歳の若いエネルギーを集結して、船出していきたいと思っております。」



いま改めて、バナーを眺めながら、深い意味をもった 4 つの波を確認しています。大野先生は、芸術家であり、そのアートな心を中心に創設されたのが ART TODAY だったと思います。私達のクラブソングの作詞者も大野先生であり、こんな素晴らしい方を初代会長として生まれたゴールデン RC を、誇りに思います。この日ゲストと 45 名のチャーターメンバーが出席して当クラブの第 1 回例会が開催され、その歴史の第 1 歩が踏み出されたわけです。当日の記念写真の皆さんの顔を見ると、私も含めて余りにも若々しく、年の歳月を物語っています。

私がこのクラブに入会したのは 38 歳の頃。当時は青年会議所で副理事長を務めており、日本青年会議所全国大会の豊橋大会誘致に奔走し、函館との壮絶な競争の結果、2 年後の開催が決定した頃でした。入会のお誘いは正直、時期尚早だと感じていましたが、皆さんの熱心なお声がけと、バブル期特有の“なんとなくさ”の気分で入会を決意しました。入会後は、100%出席率の維持など予想外の厳しいロータリーの洗礼を受けましたが、あれから早くも 37 年が経ちました。

振り返れば、最初の 10 年はまさに「黄金期」と呼ぶにふさわしい時代でした。創立時 45 名だった会員は、わずか数年で 80 名を超え、活気とチャレンジ精神にあふれるクラブとして成長しました。多くの後輩たちが「RC に入るならゴールデンがいい」と口にするほど、魅力ある存在でした。

しかし、10 周年を迎えた頃から変化の兆しが見え始めます。会員数は減少に転じ、20 周年時には 60 名を下回り、高齢化も進行。平均年齢は創立時の 45 歳から、20 年後には 60 歳を超えていました。これは、ロータリー全体の流れとも共通する課題であり、「試練の 10 年」とも呼べる時期だったと思います。

この頃、私は一度立ち止まり、考えました。

「良いロータリークラブとは何か？」

「会員数や年齢構成が全てなのか？」

その答えのひとつは、数ではなく質にあるということ。若ければ良い、人数が多ければ素晴らしいというものではありません。大切なのは、どれだけ目的意識を共有し、成長し合える仲間と出会い続けられるか、ということだと感じるようになりました。

そして、20 周年から 25 周年の 5 年間。この時期を「再生の始まり」と私は捉えています。会員数の減少には歯止めがかかり、新しい仲間の加入が続きました。平均年齢も少しずつ下がり、クラブに新たな息吹が吹き込まれました。出席率も向上し、数字の上でも「新たなスタート」を感じることができました。

このように、クラブはただ若返るだけでなく、成熟していく過程に入ったのです。若さと勢いだけでなく、経験と知恵が調和する「第2の黄金期」へ向かって動き始めていたのです。

そして迎えた30周年。

私たちのクラブには、かつて家族会に連れてきた子どもたちの“次の世代”がメンバーとなり、クラブを牽引し始めています。チャーターメンバーとして長年歩んできた身として、このクラブを次の世代に託せる時が来たことを、心から嬉しく思っていました。

老壮青のバランスが整い、世代を超えた信頼と絆の中でクラブが育まれている。これこそが、30年の歴史が生んだ最大の成果なのかもしれません。

この節目の年にあたり、改めて思いました。

「良いクラブをつくる」のではなく、「良い仲間と共に歩み続ける」ことが、ロータリーの真の目的なのだと。

まもなく迎える40周年、そして次の世代へ。

私たち豊橋ゴールデンRCが、引き続き“真に成熟したクラブ”として、その名にふさわしい輝きを放ち続けることを願ってやみません。

本日はご清聴ありがとうございました。

趣味の会報告

クラブ・ゴールデンカップ

高井龍雄会員

10月22日(水)平尾CC

優勝 今川明彦会員

2位 三浦時子会員

3位 高井龍雄会員



★ニコボックス

神谷 馨・高橋哲也：本日の企画を加藤ゆり子プログラム委員長ありがとうございます。大須賀会員卓話よろしくお願いします。

三浦時子：乾杯をさせて頂き。

大須賀憲太：入会記念日をお祝い頂き。スピーチさせて頂き。

西郷隆治・牧野政雄・

山口幹夫・山本雅久：入会記念日をお祝い頂き。

宇藤 信・藤倉康晴：会員スピーチをさせて頂き。

加藤ゆり子：クラブ創立記念例会です。チャーターメンバー代表として大須賀会員に話しさせて頂きます。よろしくお願いします。

本多英司・鬼頭秀幸：年次報告書が完成しました。改めて皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。

鬼頭秀幸・山下 孝：還暦のお祝いニコボックスを忘れていました。

山口幹夫：ファイヤーサイドミーティングありがとうございました。

今川明彦：ゴールデンカップにてハンディに恵まれ優勝でした。

三浦時子：ゴールデンカップはメンバーに恵まれ準優勝をさせて頂き。ありがとうございました。

今川明彦：ゴールデンカップ同組の本多会員、酒井会員、鷹巣会員ありがとうございました。

白井正樹：日経新聞にクックマートが「東京のスーパーと資本提携」について大きく出ましたが、これは大変良いニュースです。11/7の会員スピーチで詳しく話させて頂き。

石原聖季：先日は高井さんのおかげで豊橋南RCで卓話をしてきました。大変でした。

山下 孝ニコボックス委員長

★幹事報告

・豊橋東RCより中垣内祐一氏講演会のご案内、地区大会諸事ご案内、2024-25年度地区優秀賞受賞のご報告が届いております。

★他クラブの例会変更

- 11月4日(火) 宝 飯RC 社会奉仕例会
- 11月5日(水) 渥 美RC 地区大会参加(サインは4日)
- 11月6日(木) 田 原RC 地区大会2日目へ参加
- 11月11日(火) 田原パRC 地区大会2日目へ参加
- 宝 飯RC 地区大会参加のため
- 11月12日(水) 豊 川RC 地区大会開催のため
- 11月13日(木) 豊 橋RC 地区大会2日目に参加